

北海道建築士

HOKKAIDO KENCHIKUSHI 2021.08.No288

8月号

目次

北海道赤レンガ建築賞が伝えるもの	1
特集	2
・令和2年度北海道赤レンガ建築賞	
・令和2年度北海道赤レンガ建築奨励賞	
女性の窓	6
[No.101 HOKKAIDO 建築士会 女性委員会]	
西から東から「土別のまち」	7
information	8

URL <https://www.h-ab.com/>

北海道赤レンガ建築賞が伝えるもの



情報委員会 副委員長 早川 陽子 (小樽支部)

今年も北海道赤レンガ建築賞の受賞作品を紹介する頃となりました。令和2年度の審査はコロナ禍で苦労が多かったことと思います。審査員は5名。うち1名は北海道建築士会の女性会員が歴代の審査員となっています。

その歴史は、昭和63年度（1988年）北海道が「北海道建築賞」として北海道の建築の創造活動の促進、建築文化の向上、地域に根ざしたまちづくりの促進などを目標としてスタートしました。

平成3年度に「赤レンガ建築賞」と改称、平成6年には同奨励賞が創立され、北海道らしさ、親しみ、広がりのある名誉ある賞に成長してゆきました。

平成18年に賞の継続の危機が訪れ、関係者一同真っ青に。しかし同賞のもつ意義の大きさから自主的に「北海道赤レンガ建築賞を継続・発展させる会」が発足、運営を道内の建築・建設関係14団体と北海道による実行委員会が担い、北海道建築士会は主催5団体の1つとなり、賞は道民が中心となる賞へと発展し、現在に至っています。

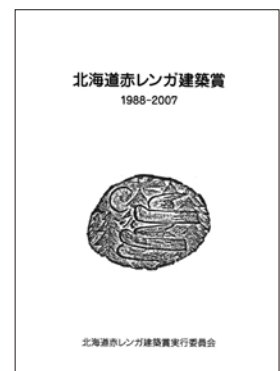
平成20年（2008年）、20回目の節目として記念誌が発行されました。特筆すべき点は、編集にあたり受賞の方々に「受賞作品の目指したものと現在」とい

うテーマで改めて作品を語って戴いた事です。

同年、記念講演会も開催され、講師の北海道大学名誉教授 越野武先生の「建築は強く、正しく、美しく。建築家＝知識人は建物の面白さや、すばらしさを言葉や文章で語れる立場にある。」というお話は心に響くものがありました。

現在の審査員 小町さん

は、審査で大切にしている事は、応募作品は同じ目線で審査する、自分の専門（構造）は勿論、他の審査員の意見を尊重し総合的に評価をしている、と言います。今後は士会の皆さんからの応募に期待を寄せています。



記念誌 銘板のデザインは 故伊藤隆一氏



記念誌 第1回目の受賞作品



令和2年度受賞作品「りすた」の賞状と銘板（提供：夕張市）

北海道建築士会と関わりの深いこの賞が、北海道の建築文化の向上と、快適で美しい生活環境を道民と共に創造してゆくことを願ってやみません。

（任期H11～20年）

（参考資料：北海道赤レンガ建築賞1988-2007）

令和2年度 北海道赤レンガ建築賞

夕張市拠点複合施設 「りすた」

■建築主 夕張市
■設計者 (株)アトリエブク
 (株)山脇克彦建築構造設計
 北海道大学大学院工学研究院都市地域デザイン学瀬戸口研究室
■施工者 ピーエス三菱・坂本建設工業特定JV
 末廣屋・大晃・夕電・駒井特定JV
 日管・北宝・泉特定JV

■建築物の概要
所在地 夕張市南清水沢4丁目48番地12
主要用途 事務所
構造及び階数 S造 平屋建
建築面積 1,959.37㎡
延べ面積 1,747.02㎡
竣工年月日 令和元年12月20日



□企画の特徴（地域との関わりなど、特に配慮した点）

「りすた」は、都市機能の強化に向けてまちの中心部に公的・公共的な機能や交通結節機能を集約・複合化した施設です。まちの将来像である「安心して幸せに暮らすコンパクトシティゆうばり」の中核施設として、「笑顔とにぎわいがこだまする街」を実現させるべく、高校生をはじめ市民・市議会・市職員と当市のコンパクトシティ構想に助力をいただいている北海道大学（瀬戸口教授）等が一体となり計画段階から検討を重ね、「多世代交流の場として、市民が主体となって築き上げる施設」「子どもの賑わいが循環する安心で安全な施設」「多様な活動を生み出すフレキシブルで開放的な施設」を計画の柱に掲げ、あらゆる活動や交流の拠点として、市民が集い親しまれるよう計画しています。

□設計の特徴

国道と道道に挟まれた利便性が高い計画地は、元々は農地であり、北側には旧清水沢神社の仮宮跡が残る小高い鎮守の森が残されていました。設計に当たっては、この地から新たに始動する夕張の将来像を見据え、緑豊かな環境に包まれた都市拠点をイメージした「まちと自然をつなぐ建築」をコンセプトとしました。

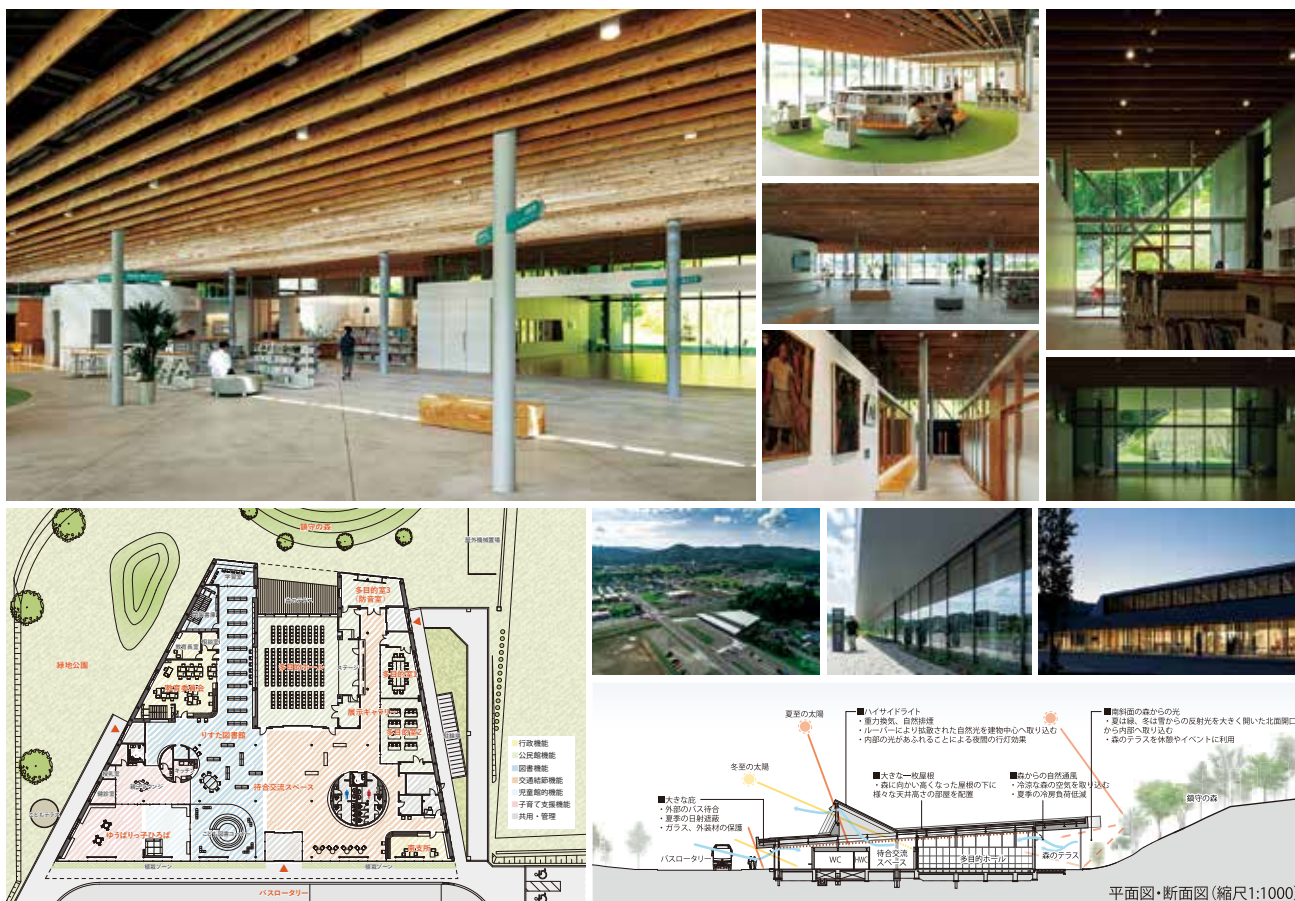
建物は南側に間口を広げた台形状平面に、森に向けて緩やかに傾斜した大きな1枚屋根をのせた構成となっています。南北面のファサードは全面ガラス張りとし、南面バスロータリーからは市民をおおらかに迎え入れ、高さ5.5mとなる北面からは森の緑に反射した光や風を取り込みます。開放的な平面を実現するため、300φ以下の鉄骨柱を8.1mグリッドで配し、外周部のみにブレースを集約させてデザインと構造の融合を図りました。道産カラマツ合板を短冊状にカットした木ルーバーが天井全面を覆い空間の一体感を強調します。市民ワークショップで検討された様々な機能は、入れ子状の小架構やガラススクリーンにより空間を緩やかに仕切りながら注意深くレイアウトしました。刻々と変化する自然を身近に感じられ、多様な活動が大きな屋根の下に展開される、「小さなまち」のような建築が生まれました。市民が自由にくつろぎ交流する、新しい夕張の拠点となることを期待しています。

□施工の特徴（工法の特徴、施工上の配慮、工夫等）

大空間で開放的な空間を演出するための主構造である鉄骨の品質管理及び施工に十分配慮しました。施工図作成から工場製作、現場搬入、施工といったそれぞれの過程における品質管理や工程管理を徹底し工事を進めました。また、変形台形型の建築であるため各所におけるディテールの納めにも苦慮しましたが、施工図段階から設計者と綿密な打ち合わせを徹底し、施工に反映させました。

□完成後の地域への貢献度等

令和2年3月の供用開始以来、一時的に休館の時期はあったものの、中高生をはじめ多くの市民が立ち寄り施設を利用しています。施設内にある行政窓口での手続きが終わった後には市民の作品等が展示されているギャラリーを見学したり、バス通学の児童生徒がバス時刻までの間に待合交流スペースや学習室で学習をしていたり、未就学の子どもが集まることで親同士の交流や施設内にいる方々と自然に交流が生まれるようになりました。交通機能の結節だけではなく、人や活動（＝交流）、笑顔や賑わい（＝幸福）なども結節する、夕張の新たな「まちの駅」として始動しています。



□受賞のことは

建築主 夕張市長 厚谷 司

この度は、夕張市拠点複合施設「りすた」が令和2年度北海道赤レンガ建築賞という大変名誉ある賞を賜ることとなり、大変光栄に存じます。

本市は、安心して幸せに暮らし続けることのできる持続可能な地域社会の構築を目指し、集約型コンパクトシティの形成による都市構造の再編を進めており、その中核を担う拠点施設として、「りすた」は誕生いたしました。

財政破綻という困難を経験し、行政主導から市民主体のまちづくりへ転換を図ってきたなかで、施設構想の策定においても地元高校生をはじめ多くの市民が参画し、延べ5年にわたる議論を重ね、「夕張再生の象徴」となる施設として市民の未来への希望が形となったものと思っております。

施設整備のコンセプトである「笑顔とにぎわいがこだまする街」の実現に向けて、夕張の未来に光を照らし、市民の交流や活動が輝き愛される施設としてあり続けます。

設計者 株式会社アトリエブंक 設計部長 村國 健・設計部主任 尾辻 自然

この度は、大変名誉ある賞を頂き、関係者のみなさまに厚く御礼を申し上げます。

夕張市拠点複合施設「りすた」は、分散するまち同士をつなぐ交通体系の再編・都市機能の集約を図る集約型コンパクトシティを将来像とする夕張市において、新しいまちの象徴となることが求められました。

ワークショップを通じて広く市民のみなさまの声を拾い上げていくにつれ、種々の機能は小さくとも、それらを複合することで新しい出会いや発見が生まれるのではないかと、というアイデアが共有されました。一方、敷地の一角には古くから残る鎮守の森が広がっていたため、緑豊かな環境に包まれながら、大きな1枚屋根の下に心地よい空間が広がる姿をイメージしました。竣工後、訪れるたびに多様な企画が展開されており、来訪者の方々も自分の居場所を見つけ思い思いに過ごされているようです。ひとえに運営・管理される市職員の方々のご尽力をはじめ、利用されるみなさまの創造力によって結実した建築であると感じております。

「りすた」が市民のみなさまにとって自由にくつろぎ交流する場であり続けるために、今後も設計者として末永く携わらせて頂ければ幸いです。

施工者 《ピーエス三菱・坂本建設工業特定建設共同企業体》 代表者 株式会社ピーエス三菱札幌支店 支店長 鈴木 俊成

この度は夕張市拠点複合施設「りすた」が、名誉ある北海道赤レンガ建築賞を受賞することとなり、施工者を代表して衷心より御礼申し上げます。

清水沢地区において、コンパクトシティ形成を目指す夕張市の象徴となり得るこの拠点複合施設建設の一翼を担わせて頂いたことを光栄に思うと同時に、この工事がスタートした平成30年8月から翌年12月竣工までの約1年5ヶ月に渡り、近隣住民のご理解ご協力をいただき、夕張市役所関係各位をはじめ、工事に係る様々な方々のご指導ご鞭撻を賜りながら無事故無災害で完工できましたこと、この場をお借りしまして改めて感謝申し上げます。

この建物がこれからも夕張市の拠点として市民の皆様へ愛される施設となるよう願っております。また我々も今後とも夕張市の未来に寄与すべく精進して参る所存です。

令和2年度 北海道赤レンガ建築奨励賞

株式会社イトイグループホールディングスCLT新社屋

■建築主 (株)イトイグループホールディングス

■設計者 (株)遠藤建築アトリエ

■施工者 (株)イトイ産業

■建築物の概要 所在地 士別市朝日町中央4527番地89

主要用途 事務所

構造及び階数 木造(CLT) 2階建

建築面積 450.63㎡

延べ面積 464.84㎡

竣工年月日 令和2年2月25日



□企画の特徴 (地域との関わりなど、特に配慮した点)

士別市を拠点に地方創生企業を理念とするイトイグループホールディングスが、永らく木材を扱ってきたノウハウを活かし自社の理念の形として北海道産材(本建築では置戸町産トドマツ)を活用した再生エネルギーと省エネルギー構造による社屋を計画するにあたり、建築の新たな可能性を秘めたCLT造での北海道内で民間初となる建築計画が始まりました。

CLT工法の普及や建築性能の情報発信の為、工事中や竣工後に積極的に見学企画を受け入れ、環境性能データの収集も行っています。

□設計の特徴

本建築は壁、2階床、屋根をCLTにより構成し、木の質感を感じられるようCLTパネルは可能な限り室内外表わしとしました。壁構成は、特別豪雪地帯である士別市における積雪荷重に対してのアーチ効果の構造強化を意図すると同時に企業のアイコン的な働きを担える立面計画を行いました。執務空間の構造計画は、2階床を5層7プライ(t=210)と5層5プライ(t=150)の2種類のパネルを強軸方向に重ねて接着貼りし、パネリードで上下から縫い付けて接合することで、デスクレイアウトの更新にも柔軟に対応可能な間口幅7.7mの無柱空間をCLTパネルのみで実現しました。

また、照明はパネル間のスリットに組み込み、梁などの凹凸のないフラットな空間としました。

前面道路からの姿は周辺の風景の中で存在感と新たな地域景観を形成する事を目指しており、玄関ホールの螺旋階段はV型の壁形状と共に水平感の強い空間内で上部へ伸び広がる構成とし、発展する企業の可能性を重ね合わせました。

□施工の特徴 (工法の特徴、施工上の配慮、工夫等)

CLTは、設計図でビスとアンカー位置を施工図レベルで調整することで現場での労力を極力減らし、最小限の人数(基本大工2人)で組み上げから全ての施工を行いました。

また、CLTの将来性を鑑み、工法を普及するため施工は地元大工と自社とでチームを組んで行いました。

CLT壁パネルと基礎は引きボルトとU型アンカーで直接固定し、壁とスラブの階層間は引きボルトと長ビスで接合しました。水平パネル同士はハーフラップジョイント部分を長ビスで固定しています。工場CLTスラブを事前に接着して搬入を行い、現場で建方前に長ビスで縫い付ける事で施工の省力化を図りました。

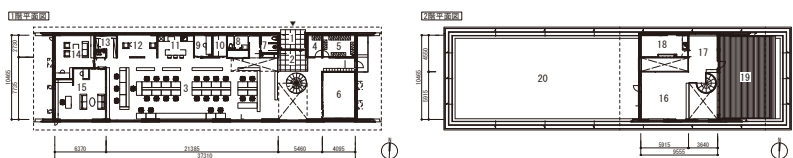
□完成後の地域への貢献度等

士別市周辺で年間に収集される流木や伐木は約1,000tにも上ります。

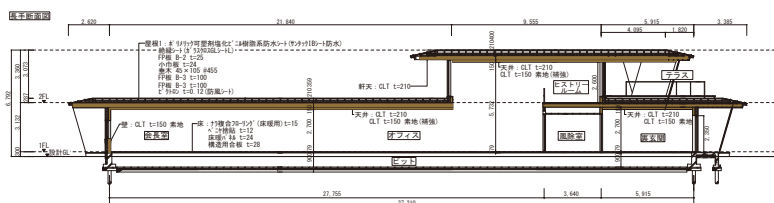
本建築の暖房熱源には、そうした地域未利用材を自社で収集し、木チップ化したものをバイオマスボイラーの燃料として利用する方式を採用しました。

バイオマスボイラーは別棟のコンテナ内に格納してある為、トレーラーによる運搬が可能であり、300㎡の床面積に半月の間暖房の供給ができます。災害時には避難所に設置し、水と木チップさえあれば給湯・熱源の供給を行える地域の災害対策資材となります。

また、本建築の環境性能を具体的に検証するため室温の他に壁面温度、外気温や部屋別の電力消費量など詳細な測定を行い、地域のリーダー企業であるイトイグループホールディングスがこれらのデータを用いて建築物の環境性能を検証し、その結果を公開していくことで北海道における地域資源を活かした持続的な建築物のモデルになることを目指しました。



- | | | | | | | |
|---------|---------------|--------|----------|---------|--------------|---------|
| 1. ボーテ | 4. ロッカー室 (女性) | 7. 男子館 | 10. 個室2 | 13. 書庫 | 16. 休憩室 | 19. テラス |
| 2. 高床室 | 5. ロッカー室 (男性) | 8. 女子館 | 11. 高床室 | 14. 浴室 | 17. ヒストリールーム | 20. 屋根 |
| 3. オフィス | 6. 高床室 | 9. 個室1 | 12. ホワイエ | 15. 社長室 | 18. 納戸 | |



□受賞のことは

建築主 株式会社イトイグループホールディングス 代表取締役 菅原 大介
 施工者 株式会社イトイ産業 代表取締役 菅原 大介

この度、弊社の新社屋が「令和2年度北海道赤レンガ建築奨励賞」という歴史と栄誉ある賞を賜りまして大変光栄に存じます。

弊社は昭和23年に造林業主体の下野組として創業し、昭和43年に土木建設業主体であるイトイ産業を設立いたしました。創業者である下野利彦(祖父)は、会社名にこの地域の呼称である「糸魚」を冠し、以来70年以上に渡り地域と共にある企業としての理念をモットーに今日まで事業を継続して参りました。

父は秋田県出身ですが、大学生時代スキージャンプの選手として国内有数の合宿地であったこの町を訪れ、創業者の娘であった母と出会いました。たくさんのご縁やご厚情を頂戴しながら、以来この地で50年間(その内、34年間をイトイ産業の2代目社長として)創業者の教えを胸に東奔西走して参りました。

2018年私が社長に就任し、同じくしてイトイ産業を中心としたイトイグループホールディングスを設立した際に、本件の新社屋建設計画が始まりました。「地方創生企業」として事業方針を体現し地域にメリットする施設とする為に、「道産材を利用する」「建築としての可能性を追求する」「再生エネルギーの利用と省エネルギー構造」の3点を目指しました。そこでCLT工法と邂逅し、建築設計事務所株式会社遠藤建築アトリエと共に環境省の補助事業である「木材利用による業務用施設の断熱性能効果検証事業」にチャレンジしました。

建築は全て自社施工で行い、社員全員が何かしらの工程に携わりました。短い工期の中、厳寒期の施工となりましたが、企業方針を体現する施設の建設をCLT構造の如く縦横に社員が重なり合って協力して竣工へと導いた事は、大変な挑戦と共に大きな成果をもたらしました。

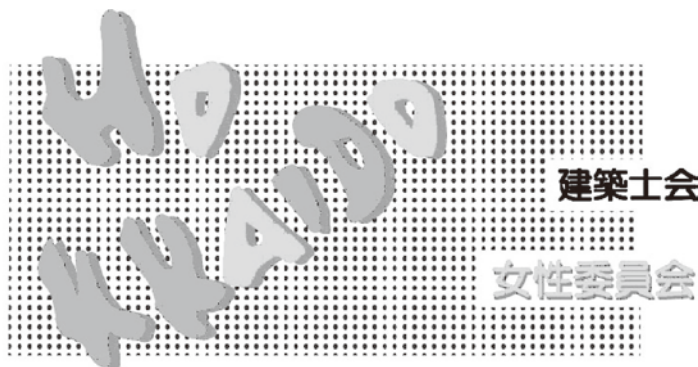
新社屋建設にあたり、北海道庁様はじめ、様々な関係者にご尽力頂いたことにこの場をお借りして心より御礼申し上げます。この賞を励みとして、今後さらにこの地域と北海道の持続的な発展に寄与して参ります。この度は誠にありがとうございました。

設計者 株式会社遠藤建築アトリエ 代表取締役 遠藤 謙一良

この度は、名誉ある「令和2年度北海道赤レンガ建築奨励賞」を賜り大変光栄に存じます。本計画は、73年の歴史を踏まえ創業の地で未来を見すえた事業の一環としてスタートしました。計画に際し地方創生企業に相応しい北海道材による木造が検討され、敷地の南面に広がる森に開かれた明るく、また、6面の内装が木で包まれた従来にない新しく柔らかな室内環境の中で社員全員が一堂に過ごすフレキシビリティの高い大空間を実現すべくCLT工法が採用されました。プランは東西に長い矩形とし、東西方向に構造壁のない10.465m×37.31mのCLTモノコック構造とし、必要諸室を間仕切って平面化、梁のないフラットな空間を実現する為、2枚のCLTを重ねて剛性を確保し、V型の壁はアーチ状の剛性強化と企業の未来へ発展する上昇感のある意匠も兼ね、また、メインストリートに面する地域を代表する企業に相応しい存在感を意図しました。屋上テラスからは朝日町と天塩山系を望みます。

本建築が今後増々地域と共に発展し、持続する地域社会が実現する事を願っております。

No. 101



『私の好きな場所』

～星置神社～

後藤 朋恵 (札幌支部)

札幌と小樽の境界の山側に「星置神社」があります。歴史的には明治17年に広島県、山口県から入植した人々の心の拠り所として、もともとは住宅街になっている場所にあった神社が、昭和48年、現在の場所に造営されたようです。神社から海側の地名『山口』は現在、『山口スイカ』で有名ですが、札幌市の夏の最高気温ではいつも名前が挙がります。昼夜の寒暖差が美味しいスイカを育てるのでしょうか。

星置神社から東には金山があります。昭和3年から昭和25年まで手稲鉱山で栄えたということです。地名の『金山』は名残です。星置神社へは、駐車場があるので車でも行けますが、国道から階段を上げて徒歩でも行けます。それほど高さではありませんが、天気の良い日には境内から星置の街並みと大浜、銭函の海が臨めます。



境内からの風景

カエルの置物が沢山あって、ご利益を色々謳っているようですが、私は、海と山に囲まれた自然豊かなこの景色と空気が好きです。どこの境内を訪れても思うことですが、他の場所では感じることもない、境内の中は、空気が澄んでいるように感じます。広島県や山口県から入植した人々が、北海道の寒さの厳しい冬を体験し、祈らずにはいられなかった環境の中で、心の拠り所だった境内は今も人々の祈りの場所になっています。

もぎなまきこう
毛綱毅曠の建築を訪ねて
～釧路湿原展望台～

須藤志津子 (釧路支部)

釧路生まれの建築家 (1941年～2001年) 毛綱毅曠は釧路管内に数多くの建築物を残しています。

『反住器』、『釧路市立博物館』、『釧路市立東中学校 (現釧路市立幣舞中学校)』、『釧路キャッスルホテル』、『釧路フィッシャーマンズMOO』等が多くの方に知られているところだと思います。

先日天気良かった為、久しぶりに『釧路湿原展望台』に足を運びました。この建物は (やちぼうず) をモチーフにした釧路市内から鶴居村に向かう途中の高台に建っております。



湿原展望台

湿原展望台からは遊歩道があるので、久々に散策をしました。



木漏れ日の階段

木で作られた散策路は足に心地よく、木々の中を歩くことは気持ちを穏やかにさせてくれるものと感じました。



吊り橋

途中にサテライト展望台があり、釧路湿原を一望できます。



サテライト展望台

一周2.5kmの遊歩道です。「散策後に丹頂ソフトをいただく！」と楽しみにしていたのですが、お店がお休みでした。残念！



丹頂の形のソフトクリーム

皆さんも近くにお越しの際は、是非一度訪れてみて下さい。



峯垣 智剛 (士別支部)

■士別市 (さむらいしべつ、とも呼ばれます)

士別市は旭川から約60km北に位置する道北中央部のまちで、人口は約1万8千人ですが、行政面積は札幌市に匹敵するという小さくて大きなまちです。

――まちづくり①『サフォークランド士別』――

顔の黒い羊「サフォーク」をまちづくりの中心とした取り組みは30年を超え、そのラム肉はANAの国内線ファーストクラスで採用されるなど多くの方に知られているところです。

――まちづくり②『合宿の里』――

冷涼な気候のもと、国内外のトップアスリートなどが集う合宿地としても有名です。シドニーオリンピック金メダリストのQちゃんこと高橋尚子選手は有名ですが、1994年に士別で合宿をしていた小出義雄監督の下に、高橋選手が単身で訪問し弟子入りしたことはあまり知られていない実話です。

――まちづくり③『自動車等試験研究のまち』――

冬は-30℃近くまで気温が下がり、積雪も多いという自然条件を生かして、トヨタ自動車やダイハツ、ヤマハと言ったメーカーやブリジストン、ミシュランなどのタイヤメーカーによる寒冷地試験が盛んに行われています。



↑930haの広さ(新千歳空港の約1.2倍)のトヨタ自動車士別試験場。約4kmのストレートや43度のバンクなどを有する。

■士別市役所 (ついに断熱材のある建物になりました)

昭和39年建設で老朽化が進んでいた市役所庁舎が改築され、令和2年5月から利用されています。

市役所はRC造(一部鉄骨造)3階建て、消防がRC造2階建ての合同庁舎で、清水建設㈱を代表者とした「設計施工一括、異業種乙型JV」により建設されました。

外壁はレンガ+ガルバ鋼板仕上げの外断熱、冷暖房に地中熱HPを採用するなど維持管理費低減に努め、議場を多目的利用可能とするなど、コンパクトで利用しやすい庁舎を目指しました。



↑建物奥が市庁舎、手前が消防庁舎 右の鉄塔はアンテナ塔を兼ねた消防の訓練塔



↑総合案内ロビーから1階窓口



↑ロビー横で市役所と消防の間にある市民テラス。来庁者が憩うだけでなく、確定申告や期日前投票所にも利用します。

写真：グレイトーンフォトグラフィス

■道の駅 (道内129番目の道の駅OPEN)

国道40号と239号線の交差点という士別市街の中心部交差点にあった士別デパートの解体跡地に、道の駅が建設されています。去る5月1日に満を持してオープンしまして、建築士会士別支部の元まちづくり委員『滝田祐人氏(佐藤建設管理㈱)』が現場代理人として奮闘しました。

高速を使えば道南函館からでも“わずか”6時間で来られますので、会員の皆様是非お越し下さい。



道の駅「ひつじのまち 侍・しべつ」

まちなか交流プラザ完成予想パース

■食 (-20℃超えるので飲み屋さんも多いです)

士別の食と言えば「鳥もつ串」が有名です。焼き鳥屋さんで串を頼むともつ串が出てきます。(普通の焼き鳥は「精肉」と頼まないとお出ません)。



そのほか、いつも行列の多寄そば屋さんや、逆ざり極厚鉄板で焼いたジンギスカンを、おろし生姜ダレで食べる予約必須のお店など、昼も夜も楽しめますので、ぜひ泊まりでの来市をおまちしています！

道士会の動き

道本部の主な会議報告（7月）

◆第2回女性委員会

- 〈開催日〉24日(土) web会議
 〈議 題〉1) 今年度の活動
 2) 女性会員ZOOM座談会
 3) 会誌「北海道建築士」
 (広報Hokkaido)
 4) HPの更新
 5) 連合会事業
 6) ブロック活動
 7) その他

◆第2回情報委員会

- 〈開催日〉31日(土) web会議
 〈議 題〉1) 会誌「北海道建築士」
 10月以降の掲載記事を策定
 2) その他

本部の主な行事予定（8月）

- 21日(土) 第2回まちづくり委員会
 27日(金) 支部長・事務局長会議
 28日(土) 第2回事業委員会

関係機関等会議参加予定（8月）

- 3日(火) CPD・専攻建築士制度委員会WG
 上記 高野会長

講習会のご案内（8月）

監理技術者講習

- 18日(水) 札幌市 19日(木) 函館市

建築士定期講習

- 4日(水) 札幌市(動画方式) 24日(火) 札幌市

編集後記

昨年のこの時期に編集後記で予測していた事態が、今まさに現実になるようとしています。

コロナ禍は収束する気配が無く、各事業はWeb開催が主流となり、延期としていた全道大会（網走大会）は幻となりました。そんな中でも東京オリンピックは開催され、この号がお手元に届いたときには、無観客開催でTVの前で声援を送るしかない悲しいオリンピックになりそうです。今月号では赤レンガ建築賞について特集しており、コロナ禍においても建築は日々進出し、未来につなぐツールとして皆さまの記憶に残る特集となることと思われまふ。最早来年の北海道赤レンガ建築賞受賞作品が気になるところです。

情報委員会 村山 賢司（中標津支部）

CPD認定プログラム(7月認定)

プログラム認定はありませんでした。

“会員専用ページ”でオンデマンド配信中！



- 視聴方法：北海道建築士会HPの上記「会員専用ページ」をクリックしパスワードを入力
- 8月パスワード：Otr010

「建築士の日」記念事業 記念講演 「災害と建築士とすまい」

日本建築士会連合会は、「建築士の日」の記念事業として、三井所名誉会長の記念講演を配信しました。（*講演時間約1時間）

多くの会員の方々の受講をお願いします。
 下記の本会HPのバナーからご覧下さい。

“建築士の日”三井所名誉会長記念講演

「災害と建築士とすまい」

アーカイブ動画 公開中



情報委員会委員長／斎藤 勝哉
 副委員長／早川 陽子・森 勝利・前田 繁
 委員／柏倉 晶憲・村山 賢司
 片岡 哲二・境谷 香奈

北海道建築士 No.288号

印刷 令和3年7月／発行 令和3年8月

編集・発行 一般社団法人 北海道建築士会
 〒060-0042 札幌市中央区大通西5丁目11番地
 大五ビル
 電話 (011) 251-6076番
 URL <https://www.h-ab.com/>

印刷 株式会社 正文舎
 〒003-0802 札幌市白石区菊水2条1丁目
 電話 (011) 811-7151番